聖香油ミサの説教

２０２２年4月１２日

鹿児島カテドラル・ザビエル教会

役務的祭司職に叙階された司祭の皆さま、今日は司祭叙階の恵みを受けたことに感謝し、これからもキリストの祭司職を十分に果たせる、司祭叙階の時に行った誓約を更新する日です。

私は２点について、お話したいと思います。

１点目は、宣教・司牧の現場で、困難を感じる時の励ましとなる、聖パウロの言葉です。

それはコリントの信徒への手紙一の１章の 17 節から 21 節までです。

「キリストがわたしを遣わされたのは、洗礼を授けるためではなく、福音を告げ知らせるためであり、しかも、キリストの十字架がむなしいものになってしまわぬように、言葉の知恵によらないで告げ知らせるためだからです。

十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です。 それは、こう書いてあるからです。

「わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、

賢い者の賢さを意味のないものにする。」

知恵のある人はどこにいる。学者はどこにいる。この世の論客はどこにいる。

神は世の知恵を愚かなものにされたではないか。 世は自分の知恵で神を知ることができませんでした。それは神の知恵にかなっています。そこで神は、宣教という愚かな手段によって信じる者を救おうと、お考えになりました。」

私たちは毎日の生活の中で、困難や失望を感じるとき、キリストの十字架を仰ぎましょう。そして抱きましょう。

2点目は、本の紹介です。

それは、この度、教皇庁・聖職者省から発行された、「司祭養成基本綱要　司祭召命のたまもの」です。この本は午後からのコンベンツスの時にお渡しします。

今はその内容をかいつまんで、お話いたします。

今回の司祭養成基本概要は教皇フランシスコの意向が十分に反映されているように思います。まず、これまでは、綱要は教皇庁・教育省が作成していましたが、今回は聖職者省になっています。従って、知的かつ原理的というよりも、司牧的かつ霊的と言えるかもしれません。例えば、論点が、司祭召命を受けた

時点から、天に召されるまでの課程を視野に入れているため、かつては、どちらかというと司祭叙階を頂点として、養成される論考でしたが、今回は司祭叙階までを初期養成、叙階してからを生涯養成として論述しており、司祭の生涯全体を見渡すものとなっています。また、哲学課程を「キリストの弟子となる段階」、神学課程を「キリストにかたどられる段階」と命名し、それぞれの課程での目標を明確に定めています。なお、生涯養成での目標は「司祭同士の兄弟としての絆の構築」が強調されています。

皆さま、手に取って熟読なさってください。

最後に、神様から「たまもの」としていただいたこの司祭召命を、喜びをもって人々と分かち合うことができるように、詩編のことばを胸に刻みましょう。

「主を仰ぎ見て、光を受けよう。主が訪れる人の顔は輝く」

アーメン。